

科目名	問題発見の技法
担当者名	佐藤文昭

【授業の目的】

先行きが不透明なVUCAの時代において、問うことは、自らの生き方につながっています。本科目では、「デザイン思考」と「システム思考」の考え方にに基づき、統計データやインタビューなどを通じて一人ひとりの興味関心を深めることにより、これからの時代を生き抜く上で必要な「問いを立てる力」を身に付けることを目的とします。

【授業の方法】

講義内容を踏まえたワークショップ形式で行います。
ノートパソコンまたはタブレット端末を使用するので、各自毎回用意すること。

【受講に際して・学生へのメッセージ】

問うことは、難しく、面倒で、モヤモヤすることです。
しかしそれは、これからの学び、そして生き方にもつながる大切なことです。
モヤモヤの先にはきっと新たな発見があります。そんなワクワクを一緒に探してみませんか？

【テキスト】

【参考書】

梶谷真司『問うとはどういうことかー人間的に生きるための思考のレッスン』大和書房
デイヴィッド・ピーター・ストロー『社会変革のためのシステム思考実践ガイド』英治出版

【授業計画の概要】

- 第1回 (6/14金) 問うこととは何か？
「デザイン思考」と「システム思考」を通じて、私たちにとって問うこととは何かについて考える。
(事前・事後学習) 授業後の振り返り
- 第2回 (6/21金) 事実から感じ取る
「地域幸福度 (Well-being) 指標」から各自の関心を持った出来事を見つけ、その中にある想いがあるかを明らかにする。
(事前・事後学習) 授業後の振り返り
- 第3回 (6/28金) 時間軸・空間軸からみる
過去の経緯や他地域との比較などのデスクトップリサーチにより出来事の経緯や背景を調べることで、その全体像を明らかにする。
(事前・事後学習) 授業後の振り返り
- 第4回 (7/5金) 声を聴く
デスクトップリサーチから生じた疑問を洗い出し、それを明らかにするためのインタビューを行う。
(事前・事後学習) インタビューの実施
- 第5回 (7/12金) 情報を整理する
デスクトップリサーチやインタビューから得られた情報を分かりやすく整理する。
(事前・事後学習) 授業後の振り返り
- 第6回 (7/19金) 構造化する
整理した情報を活用して、出来事を構造化する。

(事前・事後学習) 発表資料の検討

第7回 (7/26金) 意識を探る

構造化した出来事の中から、その根底にある人々の意識を探ることで、真に問うべき問題を見つける。

(事前・事後学習) 発表資料の検討

第8回 (8/9金) 発表する

これまでのワークを踏まえて、各自が関心を持った出来事とその問題について発表する。

(事前・事後学習) 発表資料の作成

※本科目は、16:30~18:00の時間帯に山梨県立大学飯田キャンパスで実施します。

【学士基盤力】

- A) 技法力：読解、表現、数理・データサイエンスなどに関する基盤的リテラシーを身に付けている。
- B) 思考力：既存の知識や問題を批判的に捉え直し、創造的に思考することができる。
- C) 実践力：思考を現実と関連づけながら発展させ、進んで問題を発見し、解決していく姿勢を備えている。

【到達目標】 ()内は対応する学士基盤力

- 1) 目に見えている出来事を掘り下げていくための技法について理解することができる。(A)
- 2) 理解した技法を用いて、目に見えている出来事の根本にある問題を把握することができる。(B)
- 3) 興味関心を持ち積極的に課題に取り組むことができる。(C)

【成績評価の方法】 ()内は対応する到達目標

- 40%：各回の発表により評価する。(1)
- 40%：最終回の発表により評価する。(2)
- 20%：各回の授業参加姿勢により評価する。(3)

【実務経験のある教員による授業科目の概要】

大手及び県内シンクタンクにおいて国及び自治体の政策立案に係る調査研究の実務経験を持つ担当教員が、実践的な指導を行います。

また本科目は、公益財団法人山梨総合研究所の研究員がワークのサポートを行う予定です。

【備考】